



コロナ禍に思うこと

医事課 課長 種村 満

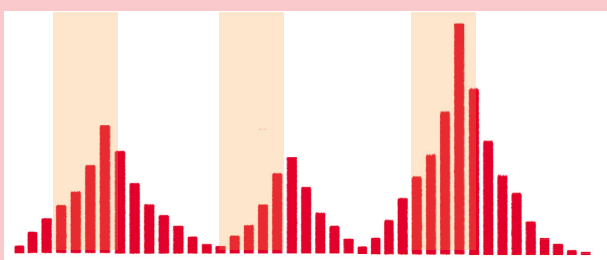
昨年1月に国内感染例が報じられて以降、これまでに経験したことのない長期間に渡る新型コロナウイルスとの戦いが現在も続いています。今年の5月以降は、変異ウイルスの感染が急速な広がりを見せ、感染者数が爆発的に増加し、東京都の感染者数は1週間平均4,000人を超えてくる勢いとなりました。

そのような状況下で7月下旬より開催された東京オリンピックでは、新型コロナウイルス感染拡大により、ほとんどの会場で無観客での競技実施となりましたが、メダルを獲得



した選手だけでなく、負けてしまった選手の姿や競技以外の場面においても、テレビ越しに多くの感動をいただきました。オリンピックの感動で、少しはコロナ禍での生活に対してがんばろうという気持ちを抱くことができたかもしれません。多くの方はこのゴールが見えない我慢大会のような状況に大きなストレスを感じているのではないのでしょうか。

コロナ感染者の推移



現在の感染状況は短期間で収束する気配は全くありません。また、これまでの緊急事態宣言/蔓延防止措置の発出状況を見ても、解除してしばらくすると感染者数が増加し、再び緊急事態宣言/蔓延防止措置が発出されるというループに陥っています。テレビ等有識者が発言されているのをよく耳にします



が、一人ひとりの意識ある行動が大切なのだと改めて思います。劇的な改善は期待できませんが、**日常的な感染予防策（マスク着用・手洗い・うがい）、複数人で食事をする際は、食事中は話さず、話す際はマスクを着用する**といった行動をみんなで継続し続けることが必要不可欠です。また、当院においてはコロナの流行前より定期的に感染予防策の院内研修を行っていますが、感染予防策の具体的な手順については、繰り返し実演が行われます。コロナの流行当初はテレビで手洗い、うがいの手順やマスクの正しい付け方について解説していたのをよく目にしましたが、最近ではほとんどみかけません。**正しい手順で継続することが大切です**ので、ネット動画等で自身の感染予防策が適切なものであるか確認することも重要だと考えます。



コロナの流行当初は、どこまで感染対策を徹底すれば流行を食い止めることができるかわからず、漠然とした不安が大きかったことを覚えています。現在は、**流行が長期化する中で、この状況にどこか慣れてしまっていることが否めません**。改めて「**正しく恐れる（正しい知識、情報を入手し、緊張感を持って行動する）**」ことを意識していきたいと思います。

